

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 12 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401335		
法人名	有限会社 藤田企画		
事業所名	グループホーム佃の里		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町永中名47-1		
自己評価作成日	平成26年11月9日	評価結果市町受理日	平成27年1月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成26年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

大勢の人を巻き込んで ご本人様や御家族に喜んでもらえる施設にしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

開設12年目を迎えた当概ホームは、ホーム敷地内にデイサービスと整骨院を併設し、日頃より入居後も友人との時間を楽しむことができるなど入居者の安心に繋がっている。また、母体が整骨院であることから日常的に整体施術を受けることもでき、体の緊張や痛みを和らげることで身体機能が回復し、日常生活動作が安定することで入居者の自信になりホーム内より時折笑い声があがるなど活気が感じられるホームである。今年度は家族とともにホームでの看取りを経験し、ターミナル期の家族や本人の思いにより添い、命に向き合うことで入居者、職員共に大変感慨深い時間を過ごした。入居者家族との絆を強くし寄り添うことを大事に考え、入居者が自分らしくゆっくりした時間を過ごせるようにと家族との連携をとりながら生活を支える職員の姿は実の家族のような温かさも感じられた。地域の一員としてより一層安心して過ごせるよう地域に貢献したいと話す職員の姿からますます期待の持てる事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員をめざし、近隣との付き合いを大切にしている。	管理者は「慈しみの心」を大切にし、自分がされて嫌なことはしない、自分にかけて嬉しかったことは相手の喜びに繋がる旨の話をし、人の幸せを喜ぶ心を持って支援するよう職員に伝え理念の実践に繋がられている。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校・中学校からの体験を受け入れている。今年も手作りのおやつを持って小学校の運動会を見学に行った。	通所利用の家族や地域の民生委員の介護相談に対し、適切な社会資源や制度の活用を助言し行うことで地域の高齢者やその家族の拠り所となり、安心して在宅生活が継続できるよう支援されている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談を受け付けている。					
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況を知らせると共に地域の情報など話題としている。 ご家族への参加も面会の折りなどを利用して呼びかけている。	推進会議ではホームの現状報告を行い、職員の思いや悩み、活動状況や対応の仕方等を報告し運営や進捗状況、実績に透明性が図られている。また行政や民生委員、介護職員の立場から意見や疑問点を話し合い情報交換を行うことで他職種間との連携の強化や課題解決にも繋がっている。				
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などを含め常によき相談相手になってもらっている。 やってほしい研修会などを提案している。	推進会議で包括職員、民生委員と繋がりを強め、GH連絡協議会では同じ悩みを持つ仲間と悩みを共有し、情報交換や社会資源の情報収集をすることで地域とホームが相互に助け合う関わりを構築したいと尽力されている。				

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>なにが拘束なのかをスタッフが共有し常に良い方法を探している。</p>	<p>身体拘束は行わない方針で、徘徊の理由を職員間で話し合い、職員がお互いに自分の所在を確認し合うことで見守りの強化や鍵をかけない介護の実践に繋がられている。常に拘束に当たらないか対処を考え、行動障害の理由や対応を検討されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃より困難な介護については全員で共有し、一人で抱え込まないように声に出すようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護についての紹介を行っている。勉強会への参加もしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項については十分に行っている。又、後日の質問についても納得されるまで説明をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の意見が届きやすいように本部に専用のTelを用意している。ご家族・利用者の意見はいつでも」管理者へ届くようにしている。公的機関へも届くように説明を行っている。</p>	<p>定期的に職員が発行する事業所便りには入居者の活動状況や作業中の表情がおさめられ、楽しい雰囲気や安心感を与える工夫がなされている。家族の面会時には気持ちいい挨拶で出迎え、最近の近況や入居者の発した言葉を伝えることで家族より本人の言葉の裏側にある思いを引き出し、思いの理解にも繋げている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>入所者の状態の把握がすぐ出来るよう、常に「報・連・相」を心がけている。</p>	<p>会議や研修で学びの機会を多く作り専門性を高めることを大事にしている。職員はそれぞれに防災や物品、身体拘束等の係を担い基本的なことは自分たちで相談しながら責任を持って業務に当たる等職員を育てる仕組みも構築されている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>働きやすい職場作りを管理者のモットーとしている。スタッフが協力して、働きやすいシフトを組んでいる。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修など大いに参加するように呼びかけている。まず自分の体で体験し、力を付けるようにしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>スタッフ自ら進んで参加を希望するようになった。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族よりの情報提供を出来るだけ詳しく聞く。入所後はスタッフが詳しく観察し連携をはかっている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>どこまで要望に答えられるかをはっきり相手に伝え、その中でよりBESTな方法を提案している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人にとって何が今一番必要なのかを見極め、サービスに生かしている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症とか弱者とかの隔たりなく生活している。どうかすると利用者が強いときがある。「皆家族」の雰囲気の中で入所者・スタッフが共に生活している。泣いたり・笑ったりの繰り返し。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に共に支えあえる関係でありたいし、信頼関係を築くには共に歩くより他はない。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所・友人などが気軽に立ち寄れる雰囲気作りを行っている。スタッフともすっかり顔見知りとなり楽しく過ごされている。	馴染みの商店へ買い物に出かけ入居者が店員とのやり取りを楽しまれている。また、かかりつけ医を受診した際にも顔なじみの方との再会を楽しむなど友人との繋がりを大事にしたり、また受診の帰りには自宅前を経由し自宅を眺め、寂しさや安心感にも繋げている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者間の橋渡し役となりコミュニケーション作りを行っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族との付き合いもあり時々、近所に来た時等立ち寄りされたりされる。初盆に出かけたり法要の挨拶に見えたりと、今もお付き合いが続いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれの思いの中で行われている。本人主体で動かれている困難な時は家族と相談している。	病気や加齢に伴い身体機能が低下した入居者に対して言葉かけやスキンシップ等の関わり合いを多く持ち、その方が大切にしてきたものを知ることでその方の持ち味や自信を取り戻す支援に繋がっている。日常生活でタオルたたみや食事の準備など自分の役割を持つことで心を癒し、自分らしさに繋げるよう支援している。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何よりもご本人の生活暦がサービスの基本である。ご家族やご本人との会話の中より把握しサービスに生かしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の体調や機能に合わせている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画全てにスタッフ全員の思いが込められるよう全員で作成している。又、ご家族の方へは面会の折、状況の説明を行っている。	介護計画作成の際には職員で現状を話しあい、その方の課題や本来の力を職員間で共通認識し、統一した対応ができるよう話し合いがなされている。関わり方によって短期記憶や機能回復に繋がり日常生活で笑顔を取り戻した事例もあった。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに細かく記入し、いつ見ても振り返りが出来るようにしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一組織内にある整骨院より毎日リハビリにきてもらっている。自立支援のサポートとして助かっている。又、デイサービスよりレクリエーションのお誘いがある。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校への散歩や通学中の子供との会話など喜ばれている。スーパーへの買い物など楽しまれている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ信頼されてきた病院との付き合いを大切にし、事業所の協力医療機関に限らず昔からのかかりつけ医を選ばれる方もおられ、自由に選択されてもよいようになっている。	入居前からのかかりつけ医を継続受診し、バイタル確認や食事をチェックし、日頃から小さな変化を見落とさず、早期対応できるよう支援されている。定期受診前には対応の仕方や体調面の不安を具体的に話し合い、医師からの情報を共有しながら適切な対処ができるよう支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中にも経験豊富な看護スタッフが増え心強く思っている。又、隣のデイサービスにも常駐しており、緊急の場合にはすぐに協力が得られる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合ほとんどが協力医療機関になり、Dr、Sw等との連携が出来る。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当の医師、ご家族と常に相談し、情報の共有をはかる事によりホームで出来る限りの事を行っている。今年2月看取りを行った事でスタッフも成長した。	今年度は家族の希望によりホームで看取りを支援された。本人や家族の思いに寄り添いながら入居者がそれまで生活してきた環境のもと家族や他入居者、職員に見守られながら最期を過ごされた。仲が良かった入居者に見送られ感慨深い時間を過ごされた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が普通救命の講習を受講しAEDの使用方法等、習得している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防署の指導の下主に夜間の避難訓練を行っている。日中は同一敷地内の協力が得られるが、ホームを取り巻くご家族は空家・独居の高齢者が多いスタッフが間近に住んでおり心強い。備蓄に付いても一覧表に基づき食品の入れ替えなど行っている。	年2回の避難訓練の際には通所職員と合同で実施し、また職員にも地元消防団員へ在籍しているため防災に対して強い意識を持ち取り組まれている。基本的に火元を出さないよう自主点検を行いながら、電気機器周辺やガス乾燥機内の埃に注意し出火の可能性のある場所に注意を払っている。	平日は通所職員により避難の協力体制はできているが、ホーム近隣は高齢者世帯が多く開所以外の有事の際の救助体制を強固なものにするため更に近隣住民との関わりを多く持ち、地元消防団との合同訓練の実施を働き掛けるなど、更なる実効性の高い訓練の実施を期待する。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの言葉かけには自尊心を傷つけていないか常に反省を促している。 自分がされて不快になる言葉かけや態度はとらないよう注意を払っている。入浴や排せつ介助の際は入居者の羞恥心に配慮し同姓介助を行うようにしている。今年度は社内研修に旅館の女将を招き、自分の仕草や対応の振り返りの機会を持った。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中により、思いや希望を聞き出している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の雰囲気一人でひとりの体調・気持ちをはかり声かけを行う。それにより自分の流れをきめる。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添うよう支援している。服・化粧等。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が何よりの楽しみとされている。準備をしながらも「味見係」をする人が多く笑いがおこっている。 職員手作りで調理された献立は、彩がよく丁寧に盛り付けされており、視覚による食欲を引き立たせ入居者の楽しみにもなっている。食事ごとに職員と仲間同士で食卓を囲み、お互いの体調を気遣いながら会話を楽しまれる時間にもなっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は把握し、体調管理に気を配っている。好き嫌がなく食べられるようになった。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後すぐに自室へ誘導、見守り介助で行っている。おかげさまで誤嚥性肺炎もなく過ごしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見て誘導し、なるべくトイレにて排泄してもらっている。	介護日誌には排泄時間を記録し、早めにトイレの声かけを行うことで排泄の失敗を軽減し、誇りを傷つけないよう対処されている。毎日のリハビリで関節の緊張や拘縮の進行を抑えることで、排泄の自立支援に繋げ自分でトイレで排泄できた達成感や自信を大事にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事献立を行っている。入所時と比べ排便が綺麗になってくるのが分かる。下剤を使っていた方がいらなくなった。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴拒否がある時は時間をずらしたり声かけするスタッフを変えて行っている。冬場は併設で特浴を利用し「浴槽に貼りたい」希望をかなえている。	希望があれば毎日の入浴も可能である。お風呂の入り方や癖を理解し入浴の順番や湯温など寛いで入れる工夫がなされている。季節に応じてゆず湯や入浴剤を使用し、香りを楽しむ支援は入居者からも大変喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に気を付け、昼夜逆転がないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	信頼できる薬剤師の方がおられ、不安なことなどいつでも相談に乗ってもらえるので安心している。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「手伝いはない？」と楽しみにされている。手伝ってもらう物を捜すのが大変である。「我先に」とされる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLの低下でご家族も外出には難色を示される。外へ出られない人は通院の折りに遠回りしてなじみの場所を通って帰ることがある。	受診の帰りに自宅周辺をドライブし、車内から自宅の仏様に向かって手を合わせ帰宅できない寂しさに寄り添う支援がなされている。また、自分の財布を握って菓子類の買い物に出かけるなど、日常的に外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出するときはご本人へ渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話を利用される時に、職員が支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くリフォームが出来、転倒の恐れがうすらいだ。	天井が高く、職員により手入れがなされた共用空間は季節の飾り付けが施され、入居者は日中のほとんどの時間をソファで寛ぎながらホールで過ごし、会話や音楽など思い思いの時間を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	かねてより念願・計画していた和室を取り除く事ができ広々とした空間となった。又、一人で部屋で休むと寂しいのでロビーにベットの置き顔の見える・聞こえる所で休めるようになった。それぞれの思いの場所できつろがれている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活パターンに合わせ、本人・家族・スタッフが一緒に行っている。	入居者の居室には温かな日差しが差し込み、季節に応じてベッドの向きを変え、生活習慣に応じて手回り品の場所を固定するなど居心地良い工夫がなされている。御主人の仏具の手入れや毎朝女性として化粧を施すことで気持ちに張り生まれ、その方らしい生活環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てがバリアフリーであり、各部屋にトイレ付きでプライバシーに配慮し、安全に生活していただくよう努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない